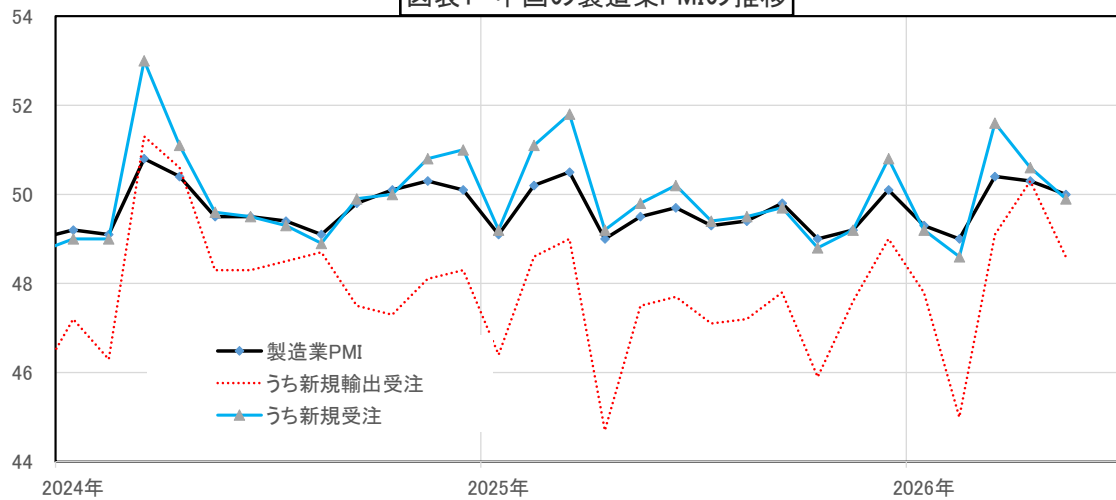


(中国)5月の企業マインド:製造業はやや悪化、非製造業は小幅改善

国家統計局が2026年5月31日に発表した5月の製造業PMI(購買担当者景気指数)は、景況感の分岐点である50となった(図表1)。4月(50.3)から0.3ポイント低下し、製造業の企業景況感はやや悪化した。

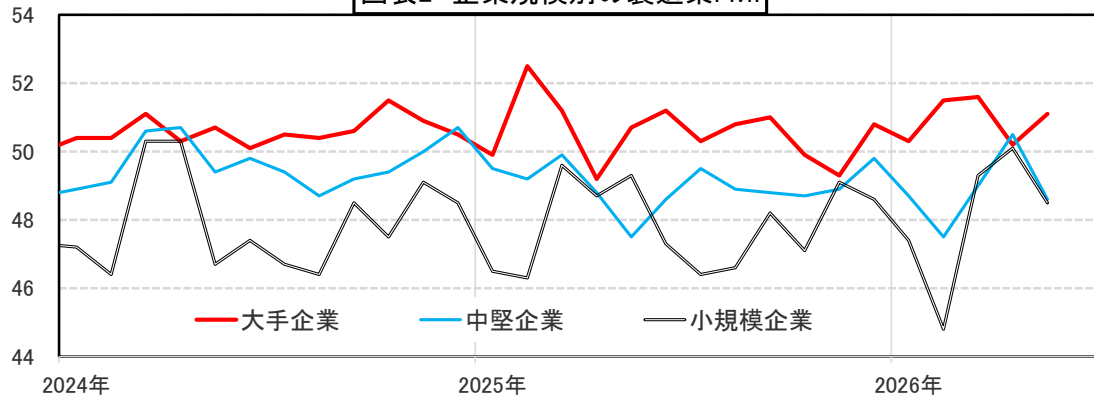
図表1 中国の製造業PMIの推移



(資料)中国国家统计局、Windより作成、直近は26年5月。

背景には、需要回復の鈍さに加え、中東情勢の影響による原油や重要鉱物価格の急騰も重くなっていることが挙げられる。新規受注は49.9と、4月から0.7ポイント低下し、3か月ぶりに50を下回った。新規輸出受注も48.6と前月から1.7ポイント低下、2か月ぶりの50割れとなった。

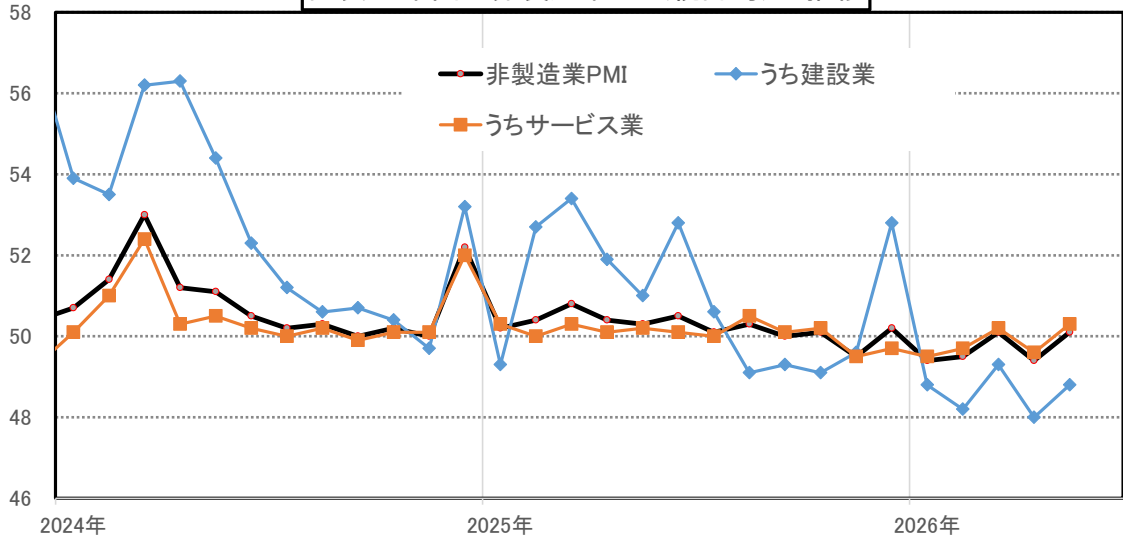
図表2 企業規模別の製造業PMI



(資料)中国国家统计局、Windより作成、直近は26年5月。

規模別にみると、大手企業は51.1と改善した一方で、中堅企業(48.6)と小規模企業(48.5)はいずれも低下した(図表2)。中東情勢の影響が中小企業により強く及んでいる可能性がある。

図表3 中国の非製造業PMI(統計局)の推移



(資料)中国国家统计局、Windより作成、直近は26年5月。

一方、非製造業 PMI は 50.1 と、4 月から 0.7 ポイント上昇し、2 か月ぶりの 50 を上回った(図表 3)。業種別にみると、サービス業は 50.3 と比較的堅調であり、鉄道運輸、通信・放送・衛星関連サービス、保険などが良好であった。一方、建設業は 48.8 と前月から改善したものの、依然として 50 を下回った。

総じてみると、5月の企業活動は緩やかながらも拡張基調にあるとみられる。ただし、中小企業の景況感悪化を踏まえると、「都市更新」(都市インフラ整備や老朽住宅の更新など)をはじめとする内需拡大策の一層の実施加速が求められる。